

GLOBE

グローブ



コロナや原材料高騰の影響を 販売拡大や経費抑制などで補い増収増益



事業概況のご報告
TOP MESSAGE



NEXT INNOVATION

繊維製品の廃棄低減を目指す
「ネオクロマト加工」技術の
共同開発



NEXT INNOVATION

アミノ酸由来人工核酸の
量産化による
核酸医薬への取り組み



TOPICS



これからも、ずっと、輝く未来。

Activate Your Life

 日華化学株式会社

株主の皆様へ



代表取締役社長

江守康昌

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2022年12月期(第109期)第2四半期決算概況についてご報告申し上げます。

当上半期は、新型コロナウイルス感染症の流行が続くなか経済活動正常化への動きがみられた一方、中国のロックダウンやウクライナ情勢が国内外経済に影響を及ぼしましたが、注力事業を柱に総じて堅調に推移し、増収増益(経常利益)となりました。事業別では、化学品事業は原材料高騰の影響を受けたものの、販売拡大や経費抑制、価格改定などでカバーしたことに加え円安の影響もあり増収増益、化粧品事業はデミ・コスメティクスが国内外共に堅調に推移したものの、前年同期に大口受託案件のブランドリニューアルによる一時的増産があったことなどから減収減益となりました。

2022年12月期通期の連結業績予想につきましては、上半期の業績や下半期の事業展開各分野における市場環境と円安の状況等を踏まえ、売上高、各利益のいずれも上方修正を行いました。

しかしながら、世界経済は今なお予断を許さない状況が続いております。激変する経営環境をビジネスチャンスへと昇華すべく、中期経営計画で掲げているEHD事業に軸足を置いた事業構造に大きく転換し、社会課題の解決に貢献できるよう、グループ一丸となって邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

▶ 2022年12月期(第109期)第2四半期決算概況

売上高 249億1千7百万円 7.2%増 ↗

- 化学品 注力分野のEHD関連製品を中心とした販売拡大
- 化粧品 前年同期の大口受託案件一時増産の影響で減収
- 円安による増収

営業利益 13億8千6百万円 0.8%増 ↗

- 原材料高騰も販売拡大や価格改定等でカバーし、円安により利益が膨らんだ

経常利益 18億2千3百万円 14.2%増 ↗

- 為替の影響等で増益

親会社株主に帰属する

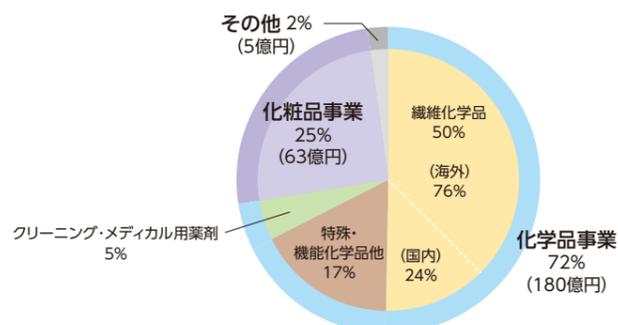
四半期純利益 10億5千8百万円 33.1%減 ↘

- 特別利益大幅減(前年の固定資産売却益)による減益

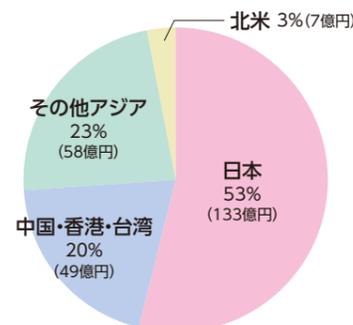
[売上高・営業利益の推移]



【事業別売上高比率】



【地域別売上高比率】



【P1-2における記載数値について】
 ※すべて連結の情報です ※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2021年度第2四半期における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております ※金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております(円グラフは1億円未満を切り捨てて表示しております) ※%表示は前年同期比で小数点第2位を四捨五入して表示しております(円グラフは売上高比率で小数点第1位を四捨五入して表示しております)

化学品事業



繊維化学品

- 繊維加工の一連の工程(精練・漂白・染色・捺染・仕上げまで)を網羅する多様な薬剤



クリーニング・メディカル用薬剤

- 業務用クリーニング・リネンサプライ業界向け薬剤
- 医療用器具・福祉分野用洗浄剤等



先端材料

- 機能性人工核酸、精密制御ポリマー、機能性ナノ材料



特殊化学品

- 感熱紙用顔色剤、AOA等の有機合成化学品
- 製紙用薬剤、金属・ゴム・電子材料用界面活性剤等



機能化学品

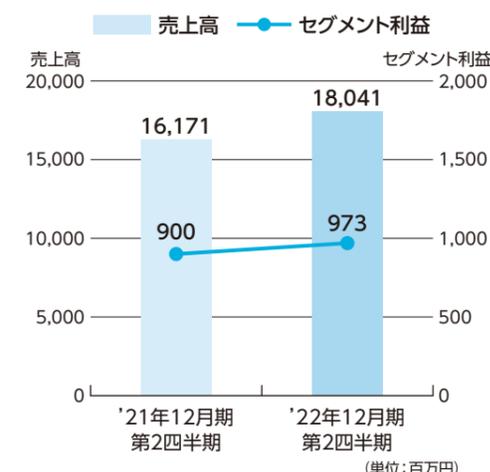
- 水系ウレタン樹脂等の機能ポリマー
- フッ素・シリコン等の工業用薬剤

売上高 180億4千1百万円 11.6%増 ↗

セグメント利益 9億7千3百万円 8.2%増 ↗

- ➖ 原材料高騰があったものの販売拡大、経費抑制、価格改定で増収増益
- ➕ 繊維化学品 欧米向けアパレル加工分野堅調
- ➕ 撥水剤、先端材料向け堅調
- ➕ 中国 ロックダウンの影響を受けるも新規獲得等で販売拡大
- ➕ 各国 対アジア通貨円安による増収増益
- ➕ 半導体ウェハ加工薬剤 市況好調で海外向け伸長、販売拡大

[売上高・セグメント利益の推移]



化粧品事業



美容室向け髪用化粧品

- 「デミ」「イーラル」ブランドで、シャンプー、トリートメント等のヘアケア剤等を提供

ODM・OEM

- 髪用化粧品の相手先ブランド受託生産



一般通販

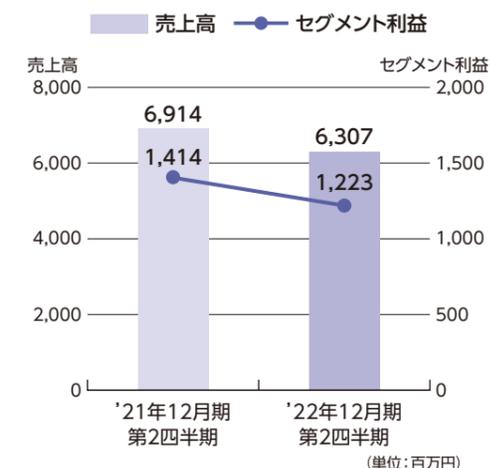
- スキンケア基礎化粧品ブランド「アンサーージュ」のインターネットによる通信販売

売上高 63億7百万円 8.8%減 ↘

セグメント利益 12億2千3百万円 13.5%減 ↘

- ➕ 日華化学、デミ コリア コロナ感染拡大で美容室来店客数減少も主力ヘアケアブランド拡販等により堅調
- ➖ 山田製薬 前年同期の大口受託案件ブランドリニューアルによる一時的増産があったことや、アルコール消毒剤向け減少により減収減益
- ➖ 原料・資材高騰の影響を受けるもコストダウン等でカバー

[売上高・セグメント利益の推移]





代表取締役社長
え もり やす まさ
江守 康昌

コロナや原材料高騰の影響を 販売拡大や経費抑制などで補い増収増益

2022年12月期(第109期)第2四半期連結累計期間の業績は、売上高249億1千7百万円(前年同期比7.2%増)、営業利益13億8千6百万円(同0.8%増)、経常利益18億2千3百万円(同14.2%増)となりました。代表取締役社長・江守康昌が上半期の業績を振り返るとともに、下半期の見通しや中期経営計画達成に向けた取り組みについて語ります。

右肩上がりの原材料価格に対応

第2四半期決算は前期に引き続き、コロナ禍の影響を受けたほか、原材料価格の高騰という逆風が吹いたものの増収増益で終えることができました。

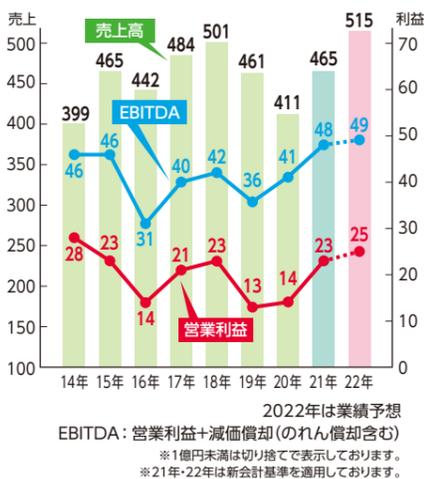
主要原材料価格の指標となる国産ナフサの価格は1キロ当たり、第1四半期で64,600円(前年同期比66%増)、第2四半期で86,200円(同81%増)に上昇しました。その他の要因も含めて、原材料費は半年間で18.8億円アップしました。これほどの上げ幅は創業以来です。対策として、販売拡大や経費抑制などを進めるとともに、取引先に販売価格の改定をお願いしてきました。

また、当社グループでは海外での売り上げが全体の半分近くを占めるため、円安がプラスに働きました。期初に想定した円相場が期中平均で1ドル=110円だったのに対し、足下では136円と円安が進行したことで業

績を押し上げ、増収増益につながりました。

ただし、親会社株主に帰属する四半期純利益は減益となりました。前期は、役割を終えた固定資産や投資有価証券の売却によって大きな特別利益を計上していたことがその理由です。

業績推移 (単位:億円)



連結キャッシュフローにおいては、前年同期比で約30億円の棚卸資産を積み増したことなどにより営業キャッシュフローが一時的にマイナスに転じました。2020年、21年とコロナ禍で在庫を抑制していましたが、ここに来て企業活動が活発化していることから、欠品を起こさないよう各拠点に余裕を持って在庫を置いておくために積み増したものです。加えて、年末には基幹工場である鯖江工場のボイラーを環境配慮タイプに切り替える予定であり、これに半月以上を要するため、多めに在庫を確保していることも理由の一つです。ちなみにボイラー交換により、使用する燃料が重油からLNGへと切り替わり、CO₂排出量が30%削減されます。

主な経営指標では、ROAは総資産の増加により若干低下、ROEは前期の特別利益増加の影響により低下しました。しかし、EBITDAは引き続き目標値レベルで推移し、自己資本比率も2.8ポイント上昇しています。

化学品は販売拡大などにより増収増益

セグメント別に見ると、化学品事業は原材料価格が高騰した影響を大きく受けましたが、販売拡大や経費抑制、価格改定などに取り組んだことに加え、円安も追い風となり、増収増益となりました。

当社グループ売上全体のうち、約半分を占める繊維化学品分野は、ウクライナ侵攻や中国のロックダウンの影響があったものの、欧米向けアパレル加工分野が堅調に推移しました。とりわけ、生産拠点であるアセアン、西南アジアが好調でした。

西南アジアでは、中国に次ぐ第二の巨大市場であるインド市場での販路拡大に一層注力するため、今年4月からムンバイに拠点を置く子会社、NICCA INDIA PRIVATE LIMITED(※1)を本格始動させました。インドの繊維加工も綿だけでなく合成繊維が増加傾向にあり、ポリエステル加工をはじめ、私たちの得意な技術を展開できます。

インド市場の開拓は当初、現地企業とのジョイントベンチャーでスタートしましたが、営業戦略の違い、あるいはマーケティング力に

優れた現社長との出会いに恵まれたことから、独資での展開に切り替えました。今後はバングラデシュでの成功モデルを横展開し、早期の黒字化を目指していきます。

2025年度を最終年度とする中期経営計画「INNOVATION25」の注力分野であるEHD(環境/Environment、健康・衛生/Health、先端材料/Digital)関連製品も販売が拡大し、E領域では環境に優しいフッ素フリー系撥水剤(※2)が堅調に推移しました。

H領域では、大手家具メーカー(株)ニトリと共同開発した抗菌防臭・抗ウイルス加工ダイニングセット「アルナスDF」シリーズの売れ行きが好調です。当初は一部店舗での限定販売でしたが、11月から全国470店舗での取り扱いが決まりました。

D領域では、半導体需要が伸長していることから、大智化学産業(※3)の水溶性クラーラント剤が好調でした。従来は国内をメインに展開してきましたが、今期はアジアを中心とした海外へも販路を拡大し、売り上げを伸ばしました。

化粧品は前期の特需が影響し減収減益

一方、化粧品事業はコロナ禍の影響を受けましたが、美容室向けは国内外ともに堅調に推移。原料・資材高騰の影響もコストダウン等でカバーしたものの、前年同期にODM(※4)事業の大口受託案件でブランドリニューアルがあり、一時的増産があった関係で減収減益となりました。

国内デミは、コロナで美容室への来店客数が減少する中、主力ヘアケアブランドの拡販等により堅調に推移しました。

頭皮と髪のエイジングケアブランド「イーラル」では6月にブランド初の公式オンラインショップをオープンしました。販売するのはトライアル品で、ブランドの認知度を高め、お客様にサロンへ足を運んでいただくきっかけをつくるのが狙いです。

同時に、ブランド最高峰の「イーラル プルミエ」では顧客との信頼関係の強化を目的に、原料のトレーサビリティの把握、環境配慮型パッケージの採用といったサステナビ

ティの取り組み、製造工程や品質へのこだわり等のクオリティ情報について、透明性をもって公開するトランスペアレンシー(透明性)サイトを開設しました。業界では先駆的な取り組みであり、「イーラル」や男性向けの



イーラルでは、原料情報のほか製造工程や品質へのこだわりなどの情報もトランスペアレンシーサイトに公開

「イーラル オム プライム」の情報も順次公開予定です。

オンラインショップに関しては、「デミ」ブランドでも9月に開設を予定しています。まずは「フローディア」の主要商品のトライアルサイズを販売し、今後は他シリーズでの展開も検討します。

山田製薬(※5)では、前年同期に大口受託案件の一時的増産があったことや、アルコール消毒剤の需要の沈静化により売り上げが減少しました。しかし、特需分を除けば堅調に推移しており、その証左に売り上げ、利益とも第1四半期から第2四半期にかけて力強く伸びています。

デミ コリア(※6)は、日本国内同様にコロナの感染拡大で美容室への来店客数が減少したものの、主力ヘアケアブランドの拡販等が進み、増収増益と健闘しました。

通期業績を上方修正

2022年度通期業績は売上高、利益とも上方修正し、売上高515億円、営業利益25億円を予想します。2023年12月期の目標(売上高500億円、営業利益25億円)を1年前倒しで達成できる見込みです。

根拠としては、まずEHD事業の伸長などによって化学品の上期の業績が好調だったことが挙げられます。さらに下期は半導体不足が解消されて、停滞していた自動車関連分野の回復や、半導体ウェハ加工用の水溶性クラーラント剤の一層の伸長などを見

込んでいます。

また、円相場が期初の想定よりもかなり円安で推移していることも売上高を押し上げる要因となっています。

とはいえ、決して楽観視しているわけではありません。繊維加工分野では、欧米の金利上昇等で景気が減速する懸念があるほか、インフレによる消費マインドの低下も見込まれます。原材料の高騰もさらに進むと予想され、引き続き販売拡大や価格改定などでカバーしていく考えです。

当社グループでは「INNOVATION25」の達成に向け、「事業構造の大転換」「生産性改革」「財務基盤の強化」「サステナブル経営の推進」「大家族主義の進化」といった5つの基本戦略に、着実に取り組んでいます。

生産性改革では、製造はもちろん研究部門でも電子ノートの導入などDX(※7)による効率化を進めています。サステナブル経営の推進では、自社だけでなくサプライチェーン全体でCO₂排出を削減できるよう、取り組みの領域を広げています。また大家族主義の進化の一環として、今春、社員寮を新築



社員寮のコミュニティルーム。憩いの場、サテライトオフィス機能のほか、災害時避難場所としても利用できる多目的スペース

しました。プライバシーとセキュリティを確保しつつ、家族のように集えるコミュニケーションの場を設け、部門を超えた若手社員のつながりが生まれています。

私たちはEHD事業に愚直に挑戦して事業構造の転換を図ってまいります。より社会に求められるイノベーションと製品を生み出すことで、名実共に東証プライム市場の基準をクリアし、同市場を代表する企業を目指して一丸となって努力してまいります。株主の皆様には、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

用語解説

【※1】NICCA INDIA PRIVATE LIMITED
2020(令和2)年9月、インドに設立した子会社。インド市場で繊維加工用界面活性剤を販売しています。

【※2】撥水剤
繊維加工工程の中で、繊維に水分をはく機能性を付与する加工薬剤。従来の撥水機能は主にフッ素化合物によるものでしたが、より環境と健康に優しいフッ素フリー系撥水剤が求められています。

【※3】大智化学産業株
1966(昭和41)年創業(本社:東京都中央区)。2015年に当社が買収した100%子会社。半導体ウェハなどの加工用水溶性クラーラント剤のトップメーカー。

【※4】ODM
Original Design Manufacturingの略で、相手先のブランドで当社が剤のレシピをはじめとした製品設計から製造までを担当すること。

【※5】山田製薬株
1910(明治43)年創業(本社:東京都中央区)。1995(平成7)年に当社が買収した子会社。ヘアケア、スキンケア、口腔ケア、消毒剤等の受託製造販売を手がけています。

【※6】デミ コリア
2012(平成24)年、韓国に設立した子会社。韓国美容室市場でデミ コスメティクス商品販売しています。

【※7】DX
デジタルトランスフォーメーションの略。企業がデジタル技術を活用し、製品やサービス、ビジネスモデル、業務などを変革すること。

【P3-4】における記載数値について

※すべて連結の情報です ※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2021年度第2四半期における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値として表示 ※金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております(業績推移グラフは1億円未満を切り捨てて表示しております) ※%表示は前年同期比で小数点第2位または第1位以下を四捨五入して表示しております

ポリエステル繊維から染料を簡単に除去 再利用を進め、廃棄と環境負荷の低減へ

当社は2022年4月、エレファンテック株式会社(東京都中央区)と共同で、ポリエステル繊維から染料を取り除く薬剤と技術を開発しました。近年、テキスタイル製品の大量廃棄は、衣類で51万トンとの調査^(※1)もあり、環境負荷が業界の課題となっています。共同開発した薬剤と技術をどのようにして繊維製品の有効利用や環境負荷低減につなげていくのか。エレファンテックの杉本雅明副社長と当社界面科学研究所フェローの松田光夫に、開発のいきさつやこれからのビジネス展開について聞きました。

大量廃棄への懸念が開発の端緒に

——共同開発を始めたきっかけは。

松田●エレファンテックは環境に優しいモノづくり技術を開発するスタートアップ企業です。杉本さんとは、福井市が主催する「X-STUDIO^(※2)」を通じて知り合いました。2018年にはNICCAイノベーションセンターでイノベーションの創発を目的とした講演会を開催し、杉本さんに講師をお願いしました。講演会后、その内容に刺激を受けた社員数名が自発的なモノづくり活動「MO-SO(妄想)ミーティング」を社内で立ち上げ、新製品開発をテーマに議論を深めていきました。その後、杉本さんからの相談を機に活動の一環として開発がスタートしました。

杉本●世界的なスポーツ大会の延期によって、大会ロゴがプリントされた衣類が大量に廃棄されるかもしれないと、アップサイクル^(※3)するための技術を開発できないかとアパレル関係者から相談されたのです。日華化学の繊維加工に関する技術力やオープンイノベーションに前向きな姿勢を知っていたから、松田さんに共同開発を打診しました。

松田●これを受け、MO-SOミーティングのメンバーが試作品づくりを始めました。

水を使わず熱だけで除去

——開発したのはどのような技術ですか。

松田●生産量が多く、幅広い用途で使われていて、当社が加工薬剤の開発を得意とするポリエステル繊維を対象にした、染料を取り除く技術です。プリント柄を識別できなくする薬剤の開発、検討を進めたところ、想定以上にきれいに染料を除去できる処方の開発につながりました。具体的には、色を抜きたい部分に薬剤を塗布し、その上に吸収紙を置いて熱をかけると、染料が紙に移行して除去できるという方法です。染料が動く様子がペーパークロマトグラフィという分析法と



ネオクロマト加工の詳細は当社サイトをご覧ください

同じことから、「ネオクロマト加工」と名付けました。

杉本●これまでは、ポリエステル繊維に使われた染料は取り除けないというのが業界の常識でしたよね。

松田●ええ。ポリエステル繊維は構造的に染料が繊維に深く入り込みます。そのため、染料を除去するには環境負荷の高い薬剤や厳しい処理条件、大量の洗浄水などが

必要で、一般的ではありませんでした。
杉本●ネオクロマト加工はそんな常識を覆し、何度でも新たな柄をプリントし直すことができるので、繊維製品の寿命が延び、廃棄物も減らせます。

松田●作業は数分で済み、水も使わない環境に優しい技術です。

——どの程度、環境負荷が低減できますか。

松田●さまざまな指標がありますが、1着の服を作るのに、数千リットルの水を消費し、約25kgのCO₂が排出されると言われています^(※4)。ネオクロマト加工でポリエステル繊維の寿命を延ばすことで、捨てない選択を増やし、環境負荷の低減につながれると考えます。

アップサイクルの実現へ サービスの販売を目指す

——どんなビジネス展開を考えていますか。

杉本●まずは展示会や大規模イベント、店頭でのPRに使われるバナー、タペストリー、のぼりなど「ソフトサイネージ」を対象にします。これらは製品寿命が短く、サービス化に



エレファンテック株式会社
取締役副社長
すぎもと まさあき
杉本 雅明さん

界面科学研究所
フェロー(イノベーション担当)
まつだ みつお
松田 光夫

適しています。生地回収から染料の除去、再プリントなど、一連のサービスを提供するための連携体制を構築し、できるだけ早く事業を立ち上げる計画です。もちろん、アパレル製品へのビジネス展開の可能性も探っていきます。

松田●今回の開発はアップサイクル技術の足掛かりです。さまざまな素材への応用展開の可能性を検討しながら、大量廃棄が問題となっている繊維製品の有効活用につなげていきます。当社の国内外のネットワークを通して、環境意識の高い欧米スポーツアパレルメーカー等へもPRし、業界ニーズを探っているところです。

——オープンイノベーションに取り組んでどのように感じましたか。

松田●自分たちだけでは成し得ない、予期せぬことが起こるのはオープンイノベーションならではの。また、繊維業界の中でも、これまで接点のなかった企業とのつながりができたこともメリットでした。

杉本●企業の価値は社内からと社外からとで見え方が異なります。今回のオープンイノベーションも企業の価値の再発見、最大化につながると考えています。環境負荷の低減に向け、日華化学の界面科学技術が役立つところはまだまだあるはずで、繊維業界以外からも頼られる企業として、さらに成長できる可能性を秘めていると感じました。

用語解説

【※1】衣類の大量廃棄
2020年の衣類の国内新規供給量は計81.9万トンに対し、廃棄量は計51.0万トン。
日本総合研究所ウェブサイト「環境影響調査」に詳細。

【※2】XSTUDIO
首都圏などからのクリエイティブな人材と福井市内企業の人材が、福井の文化や風土を紐解き、社会の動きを洞察しながら事業・プロジェクトを創出するプログラム。

【※3】アップサイクル
使い終わって本来ならそのまま廃棄される製品の一部を再利用して、新たな価値のある製品に生まれ変わらせること。

【※4】服1着あたりの環境負荷
環境省ウェブサイト「サステナブルファッション」に詳細。

核酸医薬用の新たな人工核酸モノマー 工業生産プロセスを確立し、販売開始

当社は、次世代医薬として期待される核酸医薬の原料となる、アミノ酸由来の人工核酸モノマーの工業生産プロセスを確立し、世界で初めて販売を開始しました。今後、安全性が確認され、核酸医薬に用いられれば、ビジネスとして大きく発展する可能性を秘めた製品です。取り組みの経緯や進捗状況などについて、研究開発担当取締役執行役員の稲継崇宏をはじめ、担当者話を聞きました。



取締役執行役員
界面科学研究所長
いなぎ たかひろ
稲継 崇宏

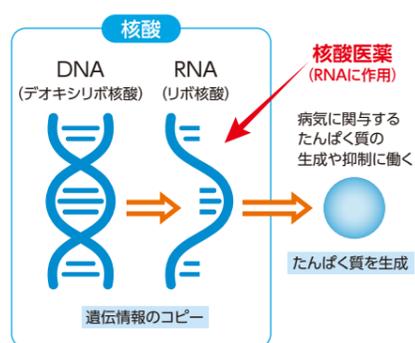
界面科学研究所
先端技術研究部
先端材料研究グループリーダー
たかむら まさひこ
高村 雅彦

クリーニング&メディカル事業部
メディカル事業推進部
事業開発グループリーダー
たつ い ひでゆき
龍井 英之

実用化が進む核酸医薬と課題

核酸医薬はDNAやRNAといった遺伝情報を司る「核酸」を利用した医薬品の総称です。病気の原因となる遺伝子に直接作用するアプローチで、今まで治療の難しかった遺伝性疾患や希少疾患などの治療薬として期待を集めています。

核酸医薬のイメージ図



ただ、承認されている核酸医薬は日本で5例、世界でも16例にとどまっています。身近なところで、新型コロナのワクチンは実用化が進んだ例と言えますが、治療薬として用いるにはまだまだ課題があるのが現状です。

普及に向けた課題の一つは原料となる核酸モノマー^(※1)にあります。天然核酸由来のモノマーからなるオリゴ核酸^(※2)は体内で分解されやすく不安定で、遺伝子まで届きにくい欠点があります。この課題を克服するため、さまざまな工夫がなされていますが、まだ全面解決には至っていません。また、化学合成したモノマーからなるオリゴ核酸は、身体への負担が出やすいなどの傾向があります。

こうした課題を解決しようと名古屋大学大学院工学研究科の浅沼浩之教授らの研究チームが開発したのが「アミノ酸由来」の人工核酸モノマーです。

従来の人工核酸の構造は、糖を主骨格

とするのに対し、アミノ酸を主骨格とし体内で分解されにくく負担の少ない構造を実現したことで、生体内での安定性と安全性が高いという顕著な長が明確になりつつあり、革新的医薬としての実用化が期待されています。

しかし、大学の研究室で合成できるこの人工核酸モノマーの数量に限られていたため、医薬品開発に向けた効果や安全性に対する研究に十分対応できないことが課題でした。そこで工業生産プロセスの確立を目指し、科学技術振興機構(JST)の研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)を活用し、名古屋大学、2016年にCNVシリーズ^(※3)の開発で一緒に取り組んだ北海道システム・サイエンス、当社で共同研究を開始したのです。

コスト低減と高品質を実現

工業生産プロセスの確立に向けては、当社が界面活性剤の製造などを通じて創業以来培ってきた精密有機合成の技術が役に立ちました。

「コスト低減と高品質を実現すると同時に、より安全性を高め製造時の環境負荷を低減させるため、大学での合成方法を見直し、独自の製造方法を確立しました」(高村)。その結果、製法の効率を測る基準である収率が数%から数十%と約10倍に向上し、一度の



開発に携わった先端材料研究グループメンバー

化学合成で取れるモノマーの量も1g程度から最大50gにまで増え、コストも大きく低減しました。

現在、この人工核酸モノマーを販売するのは世界で当社のみです。

また、この取り組みは、国の機関である日本医療研究開発機構(AMED)の先進的バイオ創薬等基盤技術開発事業に採択されているのですが、浅沼教授を研究開発代表とする検討チームにより、重要課題である安全性の担保をはじめ、核酸医薬への応用に向けた試験研究、各種評価が進められています。

安全性が確認されれば、臨床試験に用いることもできるようになり、当社が製造する人工核酸モノマーを使った核酸医薬の実用化の可能性が見えてきます。そうなればビジネスとして大きく発展する可能性が膨らみます。

「この取り組みは、製品を売るにあらずして技術を売る、という当社の創業以来のモットーを具現化した好例です」(龍井)。これは核酸モノマーの量産化という課題をビジネスパートナーと解決しながら、一方で新たな成長エンジンを生み出すテーマとして、社を挙げて積極的に取り組んでいるオープンイノベーションの成果とも言えるでしょう。

「これまでの医療で治療できなかった人を助けられる核酸医薬の実現は、非常に大きな社会貢献であり、意義深い」(稲継)。

当社では中期経営計画の柱として、EHD(環境/Environment、健康・衛生/Health、先端材料/Digital)事業への注力を据えており、今後もH領域の新たな軸として、人工核酸モノマーの研究開発に取り組み、医療の発展に寄与してまいります。

用語解説

【※1】核酸モノマー／核酸を形成する最小の単位分子
【※2】オリゴ核酸／数個から100個程度の核酸が重合したもの
【※3】CNVシリーズ／がんなどのリスクを検査するための遺伝子解析用の試薬に用いる人工核酸モノマー

デミ コスメティクス・イーラルより新発売!

3月 デミ コスメティクス
「HALEMA'O(ハレマオ)」
リニューアル発売



4月 イーラル
「イーラル プルミエ」より
「セラムレッド」新発売



5月 デミ コスメティクス
「UTAU(ウタウ)」より
「UTAU SHEER」シリーズ新発売



「イーラル」の取り組み

4月 独自メソッド「ヘッドキュア」に
脳機能改善効果等を確認



6月 「イーラル プルミエ」
トランスペアレンシー(透明性)
サイトを公開



6月 公式オンラインショップを
開設



4月
NICCA INDIA
PRIVATE LIMITED
(NID)が本格始動



4月
新社員寮
「ヴィラージュニッカ」
が竣工



美容室向けヘアケア化粧品の総合メーカー
DEMI 公式サイト



頭皮と髪のエイジングケアブランド
Eral 公式サイト



▶ 上記詳細含む当社トピックスはこちら



株主優待品制度の
ご案内

当社では株主の皆様のご支援にお応えするとともに、当社の事業に対するご理解をより深めていただくことを目的に株主優待制度を導入いたしております。詳しい内容につきましては、[こちら](#)をご覧ください。

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会 毎年3月下旬
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年6月30日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目4-1
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 フリーダイヤル 0120-782-031
※取次事務は三井住友信託銀行の本店および全国各支店で行っております。
上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場・名古屋証券取引所 プレミア市場
一単元株式数 100株
証券コード 4463

【住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について】株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申出ください。【未払配当金の支払について】三井住友信託銀行にお申出ください。

表紙写真説明 ▶ 【左上】2022年3月リニューアル「ハレマオ」シリーズ 【右上】人工核酸の研究開発の様子 【中央】ポリエステル抜染技術「ネオクロマト加工」の加工イメージ
【左下】ニッカインディアのメンバー 【右下】新社員寮「ヴィラージュニッカ」